

第906号

令和7年9月1日

佐渡市立金井小学校

佐渡ことば・こころの教室

教室だより

「つもり」の話

佐渡市立真野小学校

校長 高橋 高志

「先生、うちの子が『先生の話が全然分からぬ』と言っています。」これは、今から30年以上前、私が1年生を担任した時にある保護者の方から言われた言葉です。当時の私は、初めての1年生ということもあり、自分としてはなるべく分かり易い言葉でゆっくりと話すよう心掛けている「つもり」でした。また、子どもたちの純粋さに毎日心が洗われる思いで、毎日の授業もとても楽しく充実していた「つもり」でした。しかし、子どもたちにとっては、毎日発する私の言葉や指示は難しく、スピードも速すぎたのです。私は、子どもたちに申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。そして、もっと丁寧に子どもたちの実態を把握しなければならないと反省しました。

私は、最近「こどもまんなか」という言葉を聞く度にこの出来事を思い出します。教師（親）として、教えた「つもり」やった「つもり」になり、それが教えた「のに」やった「のに」にならないように気をつけなければなりません。自分の言葉掛けや対応が、子どもにとってどのように聞こえ、どのように見えているのかを、常に顧みて「こどもまんなか」を実現していきたいものです。

じっくり、ゆっくり、まかせましょう

「時短」という言葉があります。「時間を短く」、「時間短縮」といった意味と考えられますが、その言葉には「効率的に」とか「時間は短く、なおかつ質は保つ」といった意味も含まれているように感じます。たとえば、身近なところでは動画を倍速で見るとき、この「時短」的発想をしていると考えられます。

限りある時間を効率的に有効に使うという視点に立ったとき、「時短」で行うことでたくさんのことを行なうことができ、密度の濃い時間を送ったと思えるかもしれません。でも、一見肯定的に捉えられそうな「時短」ですが、そればかりになると、どこか窮屈で、味気なく感じられるようになります（「無駄がない」と言えば聞こえはいいですが）。

子どもと関わるときは、早めになんとかしてあげたいと思う反面、あまり「時短」「効率的に」「無駄がない」ばかりに価値を置くのではなく、あえて「じっくり」「ゆっくり」「まかせる」ことに価値を置きたいと思っています。みんな間違ったり寄り道をしたりしながら成長していくのですから。（仲田 一雅）



それが自分にできることをやる

通級の指導を受けに来る生徒は、いろいろな思いや気持ちをもって来てくれています。期待しながら入室する生徒、少しネガティブな気持ちで入室する生徒もいます。だからといって、私が「来て良かったと喜んでもらえる指導」や「先生と話すことができて良かった」等、喜んでもらえるような多種多様なネタを持ち合わせている訳ではありません。

しかし、ある時に「それが自分にできることをやる。そうしたこと が積もり積もって、社会をよい方向に動かしていく。」の言葉が印象に残りました。「アンパンマン」の原作者やなせたかしさんが残した言葉です。個々の生徒に対して何ができるか、将来大人になるために何が必要か、考えて支援を通して伝えていくことが私にできることかなと考えました。そして、誰もが「今日は(通級に・学校に)来てよかったですなあ、笑顔で心も体も元気100倍」とスッキリした気持ちで過ごす日々が続くように、毎日の通級指導を生徒と一緒に学んでいきたいと思います。(猪股 寿樹)

「人は皆、華です」

埼玉県公立中学校の教諭 長谷川博之氏の研修に出て以来、学級通信本を読んでいる。その中に、長谷川氏が生徒に向けて次のような言葉を伝えている。(学級通信第40号より)

人は皆、華です。華が土のような色をしていては駄目なのです。

一度きりの人生、一花どころか百花さかせないと。

そのために、簡単にできることがあります。それが、周りの人の良さを見つけてほめることです。ほめた方もほめられた方も幸せな気持ちになるのです。

通信を読み進めると、長谷川氏は通信だけでなく、学級でこのような語りをしていることが読み取れる。どんな場面も生徒と向き合い、生徒を励まし続けている。生徒に向けた学級通信本であるが、これを読んでいる私自身しみじみと感動している。私もかかわる子どもたちの良いところをたくさん見つけ、伝えていこうと改めて決意した。(久保 元)

(参考文献:長谷川博之著、2019、長谷川博之の「学級通信」365日全記録上巻、学芸みらい社)



親の会コーナー



第二回学習会予定

詳細は後日配布するチラシでご確認ください。

毎年、佐渡のお母さん方へドバイスをしてくださっているお医者様です。

○日時:11月8日(土)午前中

○場所:金井小学校 1階多目的教室

○内容:学習がなかなか身につかない子への対応

宿題をするのに時間がかかっている子への対応

お家の方から子どもへの声かけについて

○講師:新潟県はまぐみ小児療育センター

小児科 部長 福島 愛 氏



【新潟県はまぐみ小児療育センターとは】[\(はまぐみトップページ - 新潟県ホームページより\)](#)

◆児童福祉法に基づく「医療型障害児入所施設」及び「医療型児童発達支援センター」であり、また、医療法に基づく病院です。

◆あらゆる障がいをきたす疾患のある子ども達を療育の対象としています。



お知らせコーナー



夏季言語検査を行いました

島内の保育園・幼稚園・こども園の年長児を対象に、言語検査を行いました。更に詳しい再検査をおすすめする方には案内をお渡しました。

再検査は随時受け付けています。お気軽にお申し込みください。



再検査申し込み

有意義な情報交換ができました

夏季休業中に、通級児童生徒の担任の先生との情報交換会を行いました。日頃の学校での様子を直接お伺いすることができました。ご協力いただきありがとうございました。今後も連携していきます。

